

別紙標準様式（第7条関係）

会 議 録

会 議 の 名 称	第5回 枚方市総合計画審議会
開 催 日 時	平成26年11月17日（月） 18時00分から20時10分まで
開 催 場 所	市役所別館4階 第3・4委員会室
出 席 者	会長：新川委員 副会長：吉川委員 委員：伊東委員、榮野委員、岡田委員、北川委員、後閑委員、小原委員、 嶋田委員、高井委員、谷本委員、徳久委員、富岡委員、橋本委員、 本田委員、宮原委員、三輪敦子委員
欠 席 者	加藤委員、角野委員、三輪信哉委員
案 件 名	1. 第5次総合計画基本構想（試案）について 2. 今後の進め方について
提出された資料等の 名 称	1. 第5次枚方市総合計画 基本構想（試案） 2. 総合計画策定スケジュール（案） 3. 参考資料 基本構想に対する委員意見一覧
決 定 事 項	1. 第5次総合計画の基本構想（試案）について確認した。 2. 基本構想（試案）の市議会への報告に向けて、意見反映について正副会長に一任することを確認した。 3. 今後の計画策定のスケジュールを確認した。 4. 基本計画に係る審議の進め方について、各分野における「現状と課題」や「具体的な取り組み」を議論した後、「重点化していく施策」を検討すること、議論を活発かつ効率的に行うため部会形式で進めていくことを確認した。
会議の公開、非公開の別 及び非公開の理由	公開
会議録の公表、非公表 の別及び非公表の理由	公表
傍 聴 者 の 数	1人
所 管 部 署 ( 事 務 局 )	政策企画部 企画課

審 議 内 容

新川会長

第5回になりましたが、総合計画審議会を進めてまいりたいと思います。  
 今日、およそ2時間程度をめぐにご審議をいただければと思っております。  
 この間、基本構想について、各部会でご議論をいただき、いろいろなご意見をいただきましたが、それを取りまとめて、一応事務局の方で形にしてくださいました。これについてご報告を申し上げ、そして、総合計画基本構想（試案）としてまとめてございますので、これにつきまして、今日もご意見を伺ってまいりたいと思います。  
 各部会の様子についても、すでに委員の皆様方には事務局の方からいろいろとご案内があったかと思っておりますけれども、それを全体で合わせてご審議をいただくことになろうかと思っておりますので、よろしく願いいたします。  
 それでは、事務局の方から、本日の委員の出席、それから資料確認などをお願いいたします。  
 よろしく願いいたします。

事務局

本日の出席委員は17名で、枚方市附属機関条例に基づき、この審議会が成立していることをご報告申し上げます。  
 続きましてお手元の資料の確認をさせていただきます。  
 (手元の資料の確認)

新川会長

それでは、本日も定足数を満たしているということでございますので、さっそく本日の審議を進めさせていただきたいと思っております。  
 本日の案件は、先ほども申し上げましたとおり、第5次総合計画基本構想（試案）、試みの案ですが、これにつきまして、資料として取りまとめたものをご提出いただいております。まず、事務局からご説明を賜りたいと思っておりますけれども、ぜひ今日ご議論をいただきたいのは、この計画の中でも特に後半部分、お手元の資料で言いますと資料1の11ページ目以降の基本構想の「めざすまちの姿」や「5つの基本目標」、こうしたところを中心に議論いただければと思っております。もちろん全体を通じてご意見をいただくことも結構でございますが、できれば、後半、特に各部会でもご意見をいろいろといただいておりますので、このあたりを中心に議論をお願いできればと思っております。  
 この後半の部分を中心に事務局からもご説明をいただければと思っておりますが、おおよそ今日の進め方といたしましてはよろしいでしょうか。  
 前半部分は、現況やそれから計画そのものの位置づけといったことが基本で、これはもうこれまでもご議論、ご了解いただいているところかと思っておりますので、それでは、特にご異論がないようでございますので、後半の「めざすまちの姿」、それから、「5つの基本目標」に関わる部分、まあ言ってみれば基本構想の中身の、あんこの部分のご議論をいただくということで進めさせていただきたいと思っております。ご異論ないということで進めさせていただきますので、よろしく願いいたします。  
 それでは、すいませんが、事務局からもそのあたりふまえてご説明を頂ければと思っております。よろしく願いいたします。

事務局

(資料1「第5次枚方市総合計画基本構想（試案）」の説明)  
 (参考資料「基本構想に対する委員意見一覧」の説明)

新川会長

ただいまの事務局の方から、取りまとめたいただきました資料1を中心に、基本構想（試案）のご説明をいただきました。最後にご案内がありましたように、12月には、本市市議会にもここでの審議の内容をご報告されるということでございました。もちろん、最終版といいますか、私どもとしての決定版ではございませんけれども、中間報告のような位置付けと考えていただければいいのではないかとと思っておりますが、中間報告にいたしましても一定取りまとめをしてと考えてございます。特に、中心的な内容として

	<p>は、やはり「めざすまちの姿」、そして「5つの基本目標」、このあたりについて、各委員からご意見を賜れればと思っておりますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、ここからはご自由にご意見、ご提案などをいただきたいと思っております。なお、今日この段階で内容を確定するという審議の場ではございませんので、むしろ、各委員のさまざまなご見識からご自由に意見を出していただければと思っておりますのでよろしくお願いいたします。</p> <p>もちろんどの部分からでも結構でございます。基本構想以外の議論をされると困りますが、基本構想の議論であればどこからでも結構ですので、よろしくお願いいたします。</p> <p>ご欠席の委員からも何点かご意見をいただいてございます。決定的な議論に繋がるようなところもございますので、このあたりも含めてぜひご意見を賜りたいと思います。よろしくお願いいたします。</p>
後閑委員	<p>ずっといろいろな現状を見てきて、人口が減り、税収が減りというマイナスのイメージがとっても強くて、マイナスだけって何か寂しいまちだと感じていましたら、三輪委員から、将来を悲観的に考えるのではなく、むしろ市民が相互に支えあっていくところとか、マイナスの要素は確かにたくさんある、その中でも、活用できる人材は枚方にはたくさんいるし、そういう人たちも参加しながらまちづくりができるような、マイナスだからこうしようというのではなくて、マイナスでももう少し光り輝くところもあるし、それから、さらに、活用というか参加できる人材もたくさんいるんだけど、もう少しこの中で良さを出して、そして良いイメージを作っていけるような言葉ってないものかなということをつくづく感じました。</p>
新川会長	<p>縮小社会、縮退社会ということで、どうしても後ろ向きのイメージが強いんですけども、むしろその中で、活力のある、元気のある、そして将来に希望の持てる、そういうまちを目指そうということでお話をいただきました。そのための「めざすまちの姿」の表現や、あるいは「5つの基本目標」のそれぞれの表現の仕方、また、そこでの方向づけ、このあたりもぜひご意見いただければと思います。</p>
橋本委員	<p>会長の方からも、基本構想のことを中心にということだったんですけど、少しだけ前後してもよろしいでしょうか。</p> <p>9ページの方ですが、以前、事務局の方からの説明のときにもお話させていただいたんですが、計画の基本的な考え方というところで、三本柱で書いているんですけども、そのうちの真ん中のところになるのですが、「選択と集中の視点」ということと、それから「社会状況の変化に対応できる柔軟性」を持った計画ということで、ちょっとこれが並列のような形になっていまして、上下の計画の基本的な考え方と少し趣が違のかなという印象で、一応、事務局の方には、今回の全体的な基本構想もそうだと思うんですが、「社会状況の変化に対応できる柔軟性」ということを基に、その上で、「選択と集中の視点」を持った計画というように、並列のような書き方ではなくて、柔軟性ありきの選択と集中ということにしてみたらいかがでしょうかという意見を述べさせていただきました。</p> <p>それからもう一点は、先ほどから議論されております11ページの「めざすまちの姿」ということで、今日ご欠席されている三輪信哉委員のご意見もそうですし、後閑先生の方からもお話があったんですが、私もこの「めざすまちの姿」を拝見したときに、その上に太字で書いていますが、「人口減少社会においても発展し続けるまちづくり」ということで、こちらは非常にたくましい印象がありまして、それで「めざすまちの姿」は非常にやさしい感じが印象としてありましたので、どういった表現がいいのかなと思っていたんですが、先ほど、三輪信哉委員の意見を拝見したら、「挑戦」という言葉ですとか、「輝く」というような内容のことが書かれておりましたが、やさしさとたくましさとというところに誤差を感じたので、その辺も合わせて整合性をとっていく方が、今後の枚方市の方向性の色合いもわかりやすいのではないかなと思いました。</p>

新川会長	<p>挑戦や輝きや、あるいは力強く発展し続けるという側面、それから、いろいろと大変な事態もあるので、それをどう受け止めるかという「やさしいまち」と、両方が入ってくるのでしょうか。両方とも必要ということですが、将来の姿を実現していく上で、これをどういうふうにかこれからの枚方に向けて表現していけば、みんなにとって共通の目標になるのか。ここもいろいろなご意見をいただければと思います。</p> <p>それから、橋本委員から9ページの基本的な考え方のところ、あるいはより基本的な上位にある考え方と、そのもとでやるべきことの順番をもう少し考えてはどうかということでご意見をいただきました。もちろん、この前半部分での計画の基本的な考え方、ここも当然ご意見をいただければと思いますのでよろしくお願いいたします。</p>
三輪敦子委員	<p>私も先ほどの後閑委員の意見に大変賛成で、部会の際にもちらっと申し上げましたけれども、見通しは明るくないところがたくさんありますが、同時にまちづくりということを考える際には、「危機はチャンス」意識のような、何か明るい未来をつくっていくという展望が、非常に求められているんじゃないかと思っています。</p> <p>それで、他市の「めざすまちの姿」を参考にしながら今回出している「めざすまちの姿」を見ると、良いと言えば良いんですけど、やはりちょっとやさしすぎるような気がするところもあって、発展し続ける強さといいますか、チャレンジ精神のようなものはあまり感じられないところがあります。</p> <p>それを考えると、三輪信哉委員が出してくださっているような、挑戦とか輝きとかそういうイメージをもう少し含むことが望まれるのかなと思いますし、さらに次の12ページの実現主体のところを出されている、「つながる」ということと「支えあう」ということ、今は実現主体の目標として出されていますが、むしろ「めざすまちの姿」としてもいいんじゃないかと感じる場所があります。「つながる」こと「支えあう」ことによってみんなが輝くというようなそういうイメージを出すことも検討できるのかなと考えておりました。</p>
新川会長	<p>ありがとうございました。重要な意見をいただきました。</p> <p>「めざすまちの姿」について、もう少し、しっかりとした力強さ、挑戦とか輝きというものも必要ではないのか。</p> <p>それから、もう一つは、12ページ目のところになりますが、実現主体で表現されている、「つながる」、あるいは「支えあう」、これも「めざすまちの姿」に入ってきてよいのではないかと。もともと、この「つながる」とか「支えあう」というのは、縦串か横串かはわかりませんが、全体を通じての基本的な考え方、ここでの議論の基本のところにあるということで、これまでご意見をいただいていたところでした。</p> <p>どうぞ、この点に関連しましても、少し違うところでも結構です。ご意見をいただければと思います。</p>
富岡委員	<p>今、いろいろなご意見が出てきて、とても大切なご意見だなあと聞いておりました。</p> <p>そういうネガティブな要素がある中で、いかに前向きな方向へ持っていけるのかなあというところで、文言としては今回の基本構想とは直接は関係がないのかもしれませんが、でもいずれはつながってくる問題ということになると思います。実際にこれをどうつなげていくのか。それで、今日ご欠席の加藤委員のご意見にも関わることかなあと思いますが、実際に基本構想を実現するために、市の魅力を広く発信していく。それでは、具体的にどのようなことを発信していくのか、それで、活力ある、あるいは市民が実際に関わってという、言葉としてはとても良いんですけど、実際問題になってくると、やはり煩わしさというものを感じる方々がとても多い時代になってきているかなと思います。</p> <p>例えば、人口減少社会において、それをさらにプラス、あるいは増やしていこうということを実際にやってみようと思うと、枚方市さんではないかもしれませんが、全国的にとっても大きな問題になっているのが、幼稚園、保育園を造りたくないということですね。人口が増えていく、あるいは子どもが増えていくということになると必ず増えるわ</p>

けです。でも、自分のところには造ってほしくない。自分のところの近くに保育園があるのは嫌だという意見で、住民の反対がすごく起きているというのがとても大きな問題になっています。そういう意味では、それをどこで確保していくのか、人口減少社会を迎えて、もっと入ってきてほしい、しかも子どもたちにも入ってきてほしい、若い世代にも入ってきてほしい、でも、市民意識の中でそういうものが起こってしまう。こういう言葉は、この基本構想に盛り込むということではないかもしれない。でもいずれ問題になる。そこのところをやっぴり見越した上で、どういう仕組みとかシステムと連動していった基本構想がどこまで見通していけるのかなあといいのか、皆さんと一緒に考えていくのか、何かいいアイデアがないのかなあと思ったりもしています。すいません。ちょっと感想みたいなことを言ってしまいました。

新川会長

富岡先生から、この計画が置かれている背景、そして本当に市民の皆さん方が、この計画を通じてこれからのまちづくりをしっかりと考えていただけるような、むしろ、そういう計画にしていけないといけないという観点で恐らくお話をいただいたのではないかと考えています。

当然、総論賛成、各論反対というのはいつでもどこでもたくさんあるわけですが、もう一方では、基本的な目標に向けて、どうやって多くの人たちがともにチャレンジをしていこうという気持ちになっていただくか、そのための仕組み、仕掛けづくりというのも、この計画の中で同時に考えていくということが必要なあとと思いながらお話を聞いておりました。どうぞ、その他の点でも結構ですのでご意見をいただければと思います。

嶋田委員

私自身は、今書かれている基本構想の「めざすまちの姿」の「あらゆる人にやさしいまち 枚方 ～住むんやったら、ひらかた～」も、すごく柔らかいところがいいなという印象があるんです。その次の12ページの上書いている太字の部分、「みんながつながり、支えあうまちをめざして」という方は、こっちの「めざすまちの姿」の真ん中のカッコの上、「一人ひとりが世代にかかわらず」というところにも書かれているんですけど、今の構想もいいと思うんですが、12ページに書かれている方を「めざすまちの姿」にした方が、やっぱりクリアに見えるので、しっかりと何をするのかということが見た人にわかる方がいいのかなと思ったんです。

それと、「みんながつながり」というところについてですが、「つながり」というのも、「みんな」というとすごくアバウトな感じがします。これからすごく大切になってくるのは、お年寄り同士や若者同士がつながって支えあうっていうのではなくて、やっぱり世代を超えてどれだけつながりを深めて支えあっているかということがすごく大切になってくるのかなあと感じているので、今はかなり分断化している世代を、縦串のような役割でつなぐことができるような施策をどう考えていくかということも、行政のすごく大切な仕事の一つかなあと思うので、この「みんながつながり」というところの部分で、「世代を超えてみんながつながり」というような言葉を入れると、枚方市がどういうまちづくりをしようとしているのかということが、見る方にとってよりわかりやすいんじゃないかと思いました。

新川会長

特に、「めざすまちの姿」は柔らかくていいということもありますが、もう一方で、やはり、「つながる」、それから「支えあう」、このあたりがこれからのまちづくりの鍵になるということで、これをもっと「めざすまちの姿」の方にも入れていったらどうかという意見をいただいたかと思えます。

あわせて、その「つながる」ということの中で、大事なご指摘もいただきました。世代間、世代の違いを超えてということでお話をいただいたかと思えます。恐らく、これからの日本社会の最大の対立、社会的な対立、あるいは異なる価値観の葛藤の一番大きな部分は、この世代間の対立だろうと思っています。そういう意味でも、世代を超えてどうつながり支えあうか、とても重要な論点かなあとと思いながらお話を聞いていました。

すいません。ちょっと余計なことを申し上げましたが、どうぞ、「めざすまちの姿」についていろいろとご意見いただいております。ぜひ、皆さん方からもご意見をいただければと思います。よろしくお願ひいたします。

<p>谷本委員</p>	<p>私も、今日までは、今、嶋田委員がおっしゃったように「みんながつながり、支えあうまち」というのもいいなあと思っていましたし、先ほどの皆さんの意見にもあった、この三輪信哉委員のような前向きな意見がすごく響いたというか、いいなあと思ったんですが、今、議論をしている中で、「支えあう」とか「つながる」というのは、人が行動することを表しているというか、つながりましょう、支えあいましょうという言葉であって、「めざすまちの姿」というと、それをするためにやさしい気持ちでまちを、というようなイメージとしての印象を受けまして、何か視点が一致しているようなしていないような微妙な議論をしている感覚を感じました。それで、先ほどいただいた資料で他の近隣市の「めざすまちの姿」を拝見していると、どっちかという、やっぱり、みんなでこういうまちになりたいとか、こういうまちにしたいということを「めざすまちの姿（将来都市像）」として掲げている気がしました。そういう見方をすると、あんまり具体的じゃない言葉で表してもいいのかなあという印象を受けました。感想です。</p>
<p>徳久委員</p>	<p>それと関連しての話ですが、恐らく、我々は何を議論すればいいのかということを最初に確認した方がいいかと思います。それはどういうことかということ、先ほど谷本委員がおっしゃられたように、11 ページ目の「めざすまちの姿」というのは、そもそも状態を指すものなのか、つくるといふ能動的なものを指すものなのか、どちらなのかよくわからないということが一点あります。</p> <p>それで、これからのまちづくりというのは、市民が積極的に関与する能動的なものだということに対して合意があるかどうかはまず一点です。なぜこんなことをこの段階で確認するかということ、我々学識の人間は、比較的市内の人間ではないので、こういうのがいいんじゃないですかと言うのは簡単なんですけれども、実際に行動されるのは市民一人一人なので、市民、とりわけ市民委員の方々が、「めざすまちの姿」として、市民が積極的に関わることを第一に置きたいと考えられるかどうか、この点が非常に重要だと思います。</p> <p>先ほど、12 ページ目の「みんながつながり、支えあうまち」を目標にしてもいいんじゃないかという意見が複数出ました。私個人としては、この意見がいいなあと思ってはいるんですが、例えば、市民の方々にいきなりこんな目標を投げて本当に大丈夫なのかという行政側の意向もあるのだろうとも考えられます。でも、これからのまちづくりは、三輪信哉委員がメモ書きで出してくださったように、かつ、今日出席されている三輪敦子委員がこれまでおっしゃられていたように、ピンチをチャンスに変えるまちをみんなで作るといふことが、今後、人口減少社会の中で生き残っていく手段になり、そのためにはみんながつながり、協力し合ってまちをつくるという方向に枚方市は大きく舵を切るんだということであれば、そのことについて、まず、合意を取っておかないと、そもそも一体何のための計画なのかということがぼやけるように思います。</p> <p>それで、この点はとりわけ、我々学識より、どちらかということと市民委員の皆さんが肌感覚でどのように思われているのかということを確認して議論を進めるというのはいかがでしょうか。</p>
<p>新川会長</p>	<p>今、徳久委員からは、特に、「つながる」「支えあう」といったような、こういう市民の積極的な活動を実現していく、それを通じてこれからのまちをつくっていくということに、本審議会として基本構想についての方向を定めるということについて、皆さん方がどうお考えか、特に、どちらかということ、市外から来ている学識の私どもからすると、そういう方向はこれから考えざるをえないだろうなあと思っているところもあるんですけども、もう一方では、現に枚方市にお住まいで、そして、日常の生活感覚をお持ちの方々にとって、これからの枚方を考えていく上で、こういう言い方がどのくらいぴったりくるのかどうかというのはとても大切な問題ですので、もしご意見があればぜひいただきたいと思います。</p> <p>これまでいただいたご意見では、市民も積極的にということ、能動的な市民を想定した計画もいいということでしたが、そういう形だと、そのための仕掛けづくり、仕組みづくりのところにも少し配慮がいるということがありました。これは、一応学識という枠でくくっておくと、おおよそ皆さん方から前向きな話がいただけたかと思いますが、</p>

	<p>ぜひ、今日のご議論をいただければと思います。別に賛否を問うということではないと思いますが、ぜひ、市民感覚でのご意見をいただければと思いますのでよろしくお願いいたします。</p>
宮原委員	<p>市民感覚として、枚方市に住んで地域活動をしている立場からしますと、枚方市は、各 45 小学校区に校区コミュニティ協議会というものを設置して推進して下さって、活動の助成金などもそこを通して出てきているんですが、地域におけるあらゆる主体っていうのは、このコミュニティ協議会の中に、自治会や、各種団体、校区福祉委員会だったり防犯だったり青少年育成、交通対策などさまざまな団体で形成されていて主体的に行動しているんですが、行政として、そういうまちづくりを推進して枚方市をつくっていくということで、きっちりと計画の中に明記され、推進され、うたわれていくということは、地域活動をしている身からすると、とても心強いバックアップになると思っています。</p>
新川会長	<p>むしろ、市民の皆さん方の意識や行動を積極的に変えていく、目標を提示していくような基本構想のあり方が望ましいんじゃないのかということでお話をいただきました。その他、いかがでしょうか。</p>
伊東委員	<p>以前も言ったと思うのですが、住んでいる側としては、「住むんやったら枚方」というのは、これを目標にされると 40 万人の市民はどうしたらいいんだろうかと。  対外的に発信することと、ここに住んでいる人のために言うことと、やっぱり他の近隣の「めざすまちの姿」と比べて見たときに、負けたなっていう感じがして、具体性に欠けるというか、今さらですが、私が最初に思ったのは、何で「あらゆる人にやさしいまち 枚方」になったのかということと、何で「住むんやったら、ひらかた」が出てきたのかなという疑問があります。たぶん、それは 13 ページの「5 つの基本目標」をまとめると、「住む」ということと「やさしい」ということにつながると思うんです。そういう「5 つの基本目標」の上で成り立っている「めざすまちの姿」よりも、何て言うんでしょうか、もうちょっと具体性がある、動きのある内容の方がいいかなと思いました。それに当たるのが、12 ページの「みんながつながり、支えあうまちをめざして」かなと。それに、何かもうちょっと付けてもいいのではないかという感じがします。以上です。</p>
新川会長	<p>もっと市民の方々が積極的に動いていく姿というのも、今の市民、それから将来の市民もそうでしょうけれども、そういう人たちが動いていく姿というのを考えて、まちの姿にしてはどうだろうかということでご意見いただいたかと思います。その他、いかがでしょうか。</p>
嶋田委員	<p>私も枚方市民なので、ちょっとお話をさせていただこうかなと思うのですが、私も先ほど宮原委員が言われたみたいに、枚二校区コミュニティ協議会の広報部をやらせていただいている、枚二校区コミュニティ協議会は若者に地域のコミュニティの仕事を任せて下さっていて、それと、自分たちのまちで青年会もつくって活動しているんですが、やっぱり、ここにおられる方は、ある程度まちづくりなどに興味を持っておられる市民の方々だと思うので、私たちが言うことが枚方市民全員の思っていることかということ、またそれは絶対違うと思うんです。でも、実際にその活動をしている中では、青年会は、定例会議はあるんですけれども、年に 4、5 回のイベントで、それだけで、別に役を任せるわけでもないから、地元に興味を持ったり、地域にちょっと気持ちを残してもらったりするためと思って、小学校 6 年生、中学生から青年会に入れる仕組みなので、「どう？」って友達を誘っても、中学からは習いごともあるし、クラブも忙しくなるし、無理って言われるんですね。それで、同い年の大学生で、同じまちに住んでいる子どもたちもサークルで忙しいからとか、自分たちが住んでいるまち、市に全く興味がなくなってしまっていて、そういうのを見ると、誘う側も毎回誘ってもほとんど断られるんで、まちをもっと活性化させようというやる気のある子どもがなかなか活動しにくいような環境だと日頃から感じています。</p>

コミュニティのいろんな仕事をさせていただくと、校区のお年寄りから学ばせていただくことって多分にあるので、私は別にスターダスト河内という枚方の文化を守るチームをつくっているのが余計ですけど、やっぱり地元の愛着っていうのは、地元のことをしたりとか、自分は関係なくなってしまう地元の母校の小学生たちとふれ合う機会とか、そういうところで育まれてくるものだとしごく感じているのですが、そうやって親御さんに「青年会にどうですか？」って言ったなら、「あの子は塾が忙しいから無理です」って言われるような状態なので、そういう世代、考え方にあわせて行政が施策を組んでしまうと、今頑張っている団体さんたちはどんどん活動しにくい状況に追い込まれていく気がするので、さっき宮原委員もおっしゃっていましたが、やっぱり行政側がしっかりと打ち出してくださった方が、私たちとしてはやりやすい、心強いところがあるかなと思います。以上です。

新川会長

市民の皆さん方がなかなか積極的にこれからのまちづくりに関わっていかうということだったら、これはかえって気持ち悪くてとんでもなく変だということになるかもしれません。そんなことがなくてもまわっていけばそれでいいということがあるかと思いますが、でも、同時に、嶋田委員からありましたように、意欲を持っている人たちがもう一方の側にたくさんいらして、そして、その方たちを通じていままちがどんどんできていく、そういうことをやっぱり目指していくというのが、まちづくりの基本かなあとも思いながらお話を聞いていました。

さて、私たちはどういう方向で将来のまちの姿を考えていったらいいのか、特に枚方市民でいらっしゃる委員の方々から、ぜひご意見をいただければと思います。よろしく願います。

本田委員

「めざすまちの姿」のところなんですけれども、今の「あらゆる人にやさしいまち 枚方」とか、他市の一覧を見ていて、結構どの地域にも当てはまるような「めざすまちの姿」が並んでいるなあとあって、魅力と活力に溢れる元気都市、これが仮に「枚方」ってなっても、ふう〜んとなるような気がします。

結局、その市町村で究極の目標というか、突き詰めて考えたらどこも一緒になると思うんですが、こうやって並んで見てみると、やっぱり何か特長が出ている方が「めざすまちの姿」としても魅力的だし、みんなにも刺さるんじゃないかなと思って。この中で見ていると、交野市の「かたのサイズ」がすごくいいなって思います。ちょっと小さいまちであることを開き直っているというか、「“かたのサイズ” なまち暮らし」っていうのが、すごく交野らしいと思って。他のまちの人が見ても、枚方の「めざすまちの姿」を見て枚方らしいと感じる。そこを他のまちの名前に入れ替えても成り立たないというものにした方が、みんなも納得いくんじゃないかなと。じゃあどうすればいいのかということはまだ思いついていないんですけれども、そう思いました。

それで、行政とか総合計画の目標などに興味がない人がたまたま聞いたときに、枚方ってそういうまちを目指しているということが素直に腑に落ちるようなものがないんじゃないかなと。そういうのを考えようと思ったら、やさしいとか、住みたいとかよりも、もうちょっと踏み込んで、突っ込まれてもいいからもうちょっと偏らせたような「めざすまちの姿」にしてもいいんじゃないかなと思いました。以上です。

富岡委員

枚方らしさをどう出していくか、今までのご議論とも当然結びついてくるところもあるかと思いますが、当然、交野と同じにはできませんので、枚方をどうするか。なかなか難しいのですが、今さら、枚方サイズというわけにはいかないのが、皆さんでまた枚方らしさというのをどういうふうに出していくのか、多少ご批判いただくような表現でも、場合によっては、そのことで枚方らしさというのが出て、それをアピールする「めざすまちの姿」の方がこれからのまちの姿としては望ましいかもしれないということでもご意見をいただきました。このあたりは、ぜひいろんなアイデアをいただければと思います。よろしく願います。

皆さんのいろいろなご意見を聞いていて、なるほどと思って聞いていた部分もあります。しかし、本当に頑張っている方はいっぱいいると思うんですね。それで、会長が言

<p>新川会長</p>	<p>われたように、全員が「さあ、やるぞ、まちづくり」って、そんなことはあるわけではないので、逆に、変に気持ち悪い部分もあるんですが。</p> <p>ちょっとお叱りを受けるかもしれませんが、あえて、ちょっと言ってみたいんですけど、「あらゆる人にやさしいまち」とか、先ほど、受け身的なという表現もありましたが、逆に能動的に、それこそ、もう自分たちがつくるっていうことを前面に出したような、「あ、私がやるんだな」みたいなことを思わせるような、チャレンジな部分もあるかもしれませんが、そんな文言もあっていいのかなと思ったところです。</p> <p>市民の方々にやるしかないと思わせるというのも、これも計画としてはありかもしれませんが。すいません。余計なことを言っておりますが。その他、いかがでしょうか。</p>
<p>宮原委員</p>	<p>今、いろんな委員さんの意見を聞いていて瞬間的に思ったのですが、それを表現するとしたら、もう住んでいるのに「住むんやったら」というのはどうかというご意見もあったんですけど、それでは、「住み続けたい枚方 みんなでつくる枚方」なのかなと思ってちょっと聞いておりました。</p>
<p>吉川副会長</p>	<p>以前もお話があったと思うんですが、「めざすまちの姿」を目的にするのか、手段にするのかということで、私自身は計画屋をやっている、目的的に関わるのか、手段的に関わるのかっていうことですが、この場合は目的的に関わるとか、手段的に関わるとかっていうのがあって、これまでの皆さんの議論を聞いていますと、たぶん、ある種の目標をいただいて、目的的にするのか、実はそれに到達するための手段を目標にするのかっていう2つの議論なんですね。それで、たぶんこれは、先ほど市の方もおっしゃっているように、ある意味で縦糸と横糸と言いますか、あるいは縦串と横串みたいなものが、両方組み合わせるってのはじめて実現可能になるのではないかなと。その次に、どっちをメインに据えるかというような議論ではないかと僕自身は感じたんです。</p> <p>ですから、例えば、12ページの方がメインに出てくるのであれば、逆に言うと11ページの方がサブと言いますか、どっちを先に押すかということで、ただ、最終的には市民の方々が選ぶだろうけど、イメージもなく、ただ動きがあればいいとか、あるいは、方法だけがいいとか、あるいは、手段だけがいいっていったときに、いや、本当に成立するのかなって疑問は一つあります。</p> <p>まあ、私自身は計画屋という立場でいくと、特に計画的なものに対して、やっぱり最終的には美しいまちをつくりたいとか、便利なまちをつくりたいというのが私自身の分野ですので、どうしてもそれは目的に関わってくるんです。ただ、だけど、できあがったまちが、何か別なもののために、例えば、美しくするためにはどういうまち並みがいいかというような、そういうまち並みによって都市が判断されるかということ、これは手段になってくると思うんですね。ですので、たぶん、どちらをメインに捉えるかというだけの議論という気がするんですが。</p> <p>実は、私自身、研究室で学生諸君に言うのは、君自身がやるのは、対象を決めるのか、それとも、例えば、我々のところにあるいろんな計算機の方法を使うということの研究するのか、そのまちを良くしたいということに重きを置くのか、研究するときは2つに綺麗に分かれる。そのときは、対象論と方法論ということをやっているんですが、例えば、それは目的적이であったり手段적이であったり、あるいは、先ほどの話なんですけど、それは何かパッシブとアクティブと言いますか、能動と受動というような、全てが二元論で分かれるわけじゃないですが、何かこう、AでなくてBとか、BでなくてAとかではないのではないかなという気はします。</p>
<p>新川会長</p>	<p>今の吉川先生のお話も少し頭の片隅に置いていただきながら、最終的にできあがるまちのイメージをどうするのか、それから、そこに至る手順と申しますか、そのときにどんなふうにしたらそういうまちになっていくのかということを考えて、そういう方法の話というものもあるなあとということでお考えいただければと思います。</p> <p>もちろん基本構想の「めざすまちの姿」として、手順のところに重きを置かないといけないというご意見もあると思いますし、手順自体が本当に手順かどうか、それ自体が</p>

目的になるということもあるかもしれません。目的だと思っているのが実はその先に本当の理想があって、目的と思っていたことが実は手順かもしれないということなのですが、こちらへんは、本当に入れ子みたいになって、しかも玉ねぎの皮むきみたいなどころもあるかもしれませんので、判断しにくいところもあると思います。ただ、少しこういう目的と手順のようなことも念頭に置いていただいて、少し整理のための考え方として、これからまちの姿を考えていくときの参考にさせていただければと思います。

先ほど、宮原委員から、目的とか理想のまちとしては住み続けたいまちという意見があって、それをみんなで一緒になって支えたり、つくり続けたりというようなイメージでお話をいただいたかと思いました。

どうぞいろんな観点があるかと思いますが、ご発言いただければと思います。

三輪敦子委員

まちづくりへ市民の方々が能動的に関わると思うかどうかという点についての、市から選出されておられる委員の方たちの認識に関して、先ほど嶋田委員がおっしゃられた話は非常に興味深かったです。お伺いしたい点があるのですが、嶋田委員の周りの方で、積極的に関わっていらっしゃる方というのは、嶋田委員も含めてですが、どんなことがきっかけになって関わっておられるのか、それを伺いたいと思いました。

嶋田委員

私自身が地域のことに目を向けだしたのが小学校6年生のときで、週休二日制で土曜日がお休みになって、その時間にみんなで学校に集まって何かしようかということで、そういう目的で学校を開放してみんなで集まって交流するという「ふれ愛・フリー・スクエア」が設けられた時期でした。そのときに、盆踊りの有名な曲の河内音頭があって、今、八尾市がすごく積極的に盛り上げて取り組んでおられるんですけど、実は枚方が発祥という説があって、それを小学校6年生のときに初めて知りました。ちょうどそのとき、私の母と、小さいころから盆踊りがすごく好きで今も続けている友達のお母さんがいて、ちょっと頑張っって踊ったら地域のおじいちゃん、おばあちゃんに、「よく頑張ったね」って褒められたのが嬉しかったという経験を2人とも持っていて、子どもたちは盆踊りを踊る機会がなくなってしまっているから、踊りの楽しさを教えてあげようということで一度体験させてもらったんですよ。そのとき、すごく楽しくて、友達とそんな話をしていたときに、教えてくれた先生が、「これ、楽しいって言っているけど、今は八尾がすごく有名ですが、実はこの枚方の文化ですよ」というのを聞いて、「えっ、そうなん。なんで取られたのかな」ということで、やっぱり幼心にすごく衝撃で、自分たちでチームを作って、「枚方が発祥という説を伝えていこう。周りに広げよう」ということでチームを作ったことがきっかけで、そのときに初めて自分の住んでいる枚方に意識を持って目を向けるようになりました。

最初、小学校6年生6人ぐらいで始めたのですが、今、2歳児から社会人までで60人ぐらいのチームになっています。その中で、なぜ自分の地域の文化が廃れていっているのか、こちら辺では、外に出たら河内音頭はどこかの盆踊り会場でもかかる曲なのに、なぜ自分たちの地域が大切にしないのかということとか、盆踊りの必要性を感じました。

それと、私の兄が私立の中学校に行っていたんですけど、私立の中学校に行った瞬間から、地域との繋がりが全くなくなってしまったことにすごく残念な気持ちを持っていて、というのは、うちの地域が、年に一度、町対抗の区民体育祭をやるんですが、そこで私のまちだけがすごく盛り上がっていて、それが兄の経験の中で、まちへの愛というか、そういうものがすごく残っていて、中学になると私立組の人は特に地元との関わりがなくなってしまうから、青年会を立ち上げたんですね。それがもう7、8年ぐらい前になるんです。

そういうことをやらせてもらっていると、「朝日丘の青年会はすごく活発に活動している。若者が頑張っているんやなあ」ということで、校区コミュニティ協議会の方からお声を掛けていただき、スターダスト河内という盆踊りのチームには校区の小さな小学生たちもいっぱいいて、「自分のまちのことだけじゃなくて、もっと広い範囲で自分の校区のために何かやってみないか」というお声掛けいただきました。集まってきたメンバーで、今、広報部に入っているのは、そのスターダスト河内をきっかけに自分のまちの文化を知って、いろんな盆踊り会場に行って地域の繋がりの大切さとかを感じたからです。

	<p>昔だったら、盆踊りっていういろんなところでやっていた催しだと思うんですけど、私たち近畿一円とか東京までお呼ばれして行ったりもするんですが、いろんな会場で聞くのは、やっぱり、若者が地域の行事に全く無関心になってしまったために、やぐらをお年寄りだけで建てたり、踊り手もお年寄りしかいないため、もう来年からは盆踊りはやめようということで、そういう繋がる機会も失われているような状態で、そういうことを目の当たりにしたメンバーたちが、「地域のことをもっとやろう」と言って、青年会だったり広報だったりとかに入ってきている感じです。そういうメンバーが多いです。</p>
三輪敦子委員	<p>ありがとうございます。本当にすごいお話だなと思って聞いていました。何かきっかけさえあれば、そういう動きが出てくるのかなと思うので、そうしたきっかけをどういうところから街は生み出していけるのかなとすごく関心を持ちながら聞いていました。</p>
宮原委員	<p>今、嶋田委員がおっしゃったように、塾があるから大変とか、私どもの校区でも同じような実態があり、私どもの校区内には大阪国際大学がありまして、私たちはそこに視点を向けて、大学生も市民だということで、まちづくりそのもの、コミュニティの行事そのものに関わっていただくように、「ひと・まち・つくる」プロジェクトチームを大学の中で結成していただいて、私たちの校区コミュニティ協議会の中の全ての行事に彼らが参画しています。お茶の手配なんかをしないとイケないと思ったりもしますが、少ないときには留学生まで呼んでいます。</p> <p>枚方市には6つの大学があるので、やはり、まちづくりの中に、市内にある大学生も関わってきてくれるような働きかけも、大きな資源であり、財産ではないのかなと思っていて、そういう声の掛け方もなさってみたらおもしろいのではないのでしょうか。</p>
新川会長	<p>どうもありがとうございました。ぜひご参考にさせていただければと思います。</p> <p>それ以上に三輪委員からもございましたが、やっぱり市民の方々の中で本当にチャンス、機会があればということで、ただし、お一人お一人の感じ方や考え方、それぞれ置かれた環境が違いますから、同じものでも同じように動く訳でないのですけれど、ただ、そういう気付きや、あるいはいろんな活動をしていく機会のようなものをつくっていく。そして、それを通じていろんな新しい動き、あるいはこれまで停滞していたものが活発に動いていく。そんな枚方の姿というのを作っていくというのが、「支えあい」とか「つながり」というところの大きな意味かなと思いつつながら、お話を聞いていました。</p> <p>そういうところを、私たちのこれからのまちの目標にしていいいのかどうかということも含めて、皆さんからご意見をいただければと思います。よろしく願いいたします。</p>
徳久委員	<p>すみません、私が議論をややこしくしたようなので、なぜそういうことを申し上げたのか少し申し上げたいと思います。</p> <p>計画を作るというのは恐らくそんなに難しいことではなくて、とりわけ行政の計画を作るということに関しては、先ほど伊東委員がおっしゃられたように、やはり行政としてはトータルでやらなきゃいけないことは決まっています、13 ページ目にあるような「5つの基本目標」というのは、各種政策領域をまんべんなくやりますという目標を掲げなきゃいけないので、それを総体としてまとめていくと、「あらゆる人にやさしいまち 枚方」になるんだろうとおっしゃっているのは、恐らくそのとおりだと思うんですね。</p> <p>まちを作る計画屋の考え方からすれば、もちろんそれはそれで構わないんですが、やはり人口が減少していきただけじゃなくて、さまざまなものが縮退していく中で、都市をつくりなおすときには、これまでの考え方が必ずしも妥当するとは限らないということがあると思います。その際に、我々が期待しなければならぬのは、結局、人になってくるわけで、住民の人たちが枚方ってこんなまちだから、たくさんは嫌だけれども、ちょっとくらいならいいかなという状況に作り変えなきゃならないということがあるんだと思うんですね。</p> <p>先ほど本田委員がおっしゃっていたように、まちづくりに興味のない人間がキャッチフレーズを聞いて、「あっ、枚方ってそうなんだ」というように言えた方が、今後のまちづくりとしてはたぶん望ましいと個人的には思っています。その際に、皆さんが一体、</p>

	<p>特に市民委員の方がこの 11 ページ目にあがっている目標に納得できるかどうかというものがとても重要になってきて、それは市民活動にとっても関心のある皆さんが聞いてもいまいちというなら、たぶんその他大勢の無関心層はもっといまいちと思うはずなんです。そこを重要視するのか、それとも従来どおり「行政の計画ですので、行政の整合性に合ったまちづくりの状態を示す方がいいです」という選択肢なのか。どちらなのかということを考えなきゃいけないんだろうと思っています。</p> <p>ただ、あんまりそういうふう最初に言っちゃうと、難しくなってよくわからないということになってしまうかもしれないので、素朴に皆さんに聞いた次第です。</p> <p>それで当然のことながら、たぶん第 1 部会でも出てきた議論で、これは欠席されている三輪委員がおっしゃっていたと思いますが、「みんなで作るのなら」という方向になれば、当然 13 ページ目の「5 つの基本目標」も、「まち」というふうに終わらせるのではなくて「まちをつくる」という方向に持っていった方がいいんじゃないかという議論が出てくるんだと思います。</p>
新川会長	<p>少しやってみようと思わせるようなそういう「めざすまちの姿」というのも、とても魅力的でいいなと思いつつ私は聞いていました。皆さんいかがでしょうか。</p>
伊東委員	<p>今までの枚方市の 4 つの将来都市像を見ていると、大体もう網羅されてきたかなと思うので、次はその 4 つをステップにして、またさらなる発展みたいなところがあればおもしろいかなと思います。</p> <p>「出会い・学びあい・支えあい」は、今の時点で出会って、支えあってというのが出ているので、そこからステップアップするような、みんなが関わりたいと思うような文言があったらいいんじゃないかなと思います。</p>
新川会長	<p>これまで、4 回の総合計画のそれぞれの将来都市像が出てきています。その上に、今回の計画、基本構想がありますので、その先の姿というのを考えてはどうかということで、今、ご意見をいただきました。</p> <p>そして、たぶん、それが先ほどからありますように、市民の皆さん方の心に、本田委員がおっしゃったように刺さるかどうか、あるいは徳久委員がおっしゃるような少しやってみようかという気持ちをかきたてるかどうか。そんな言葉を上手く探せるといいなと思いつつ聞いていたんですけど、実際にはなかなか難しいですね。何を言えばいいのかなと、つい悩みながらお話を聞いています。どうぞ、ぜひ、しょうもない思っても、しゃべった方がきっといいアイデアがたくさん出てくるかと。</p>
本田委員	<p>こういう流れになったので、ちょっと思いついたことを言わせていただければ。本当に聞き流していただいていたんですけども。</p> <p>いろいろな問題が世の中にあって、それをいろんな市町村が同じような目標で頑張っているとして、枚方がその中で抜きん出ていこうと思ったら、ちょっと独創的なアイデアをいっぱい出して、それをいかにスピーディーにやっていくかということが結構大事なかなと個人的には思っています。一つ、「アイデアが出るまち」というのがちょっといいんじゃないかなというのがあって、もう一つ、枚方ならではと考えたら、枚方市民の方やったらみんなそうだと思うんですが、「私、枚方市民です」と言ったら、「あー、ひらパーね」と言われるんです。だからといって、企業なんで「めざすまちの姿」にひらパーの良さは入れられないと思うので、ちょっとぼかせないかなと思って。ひらパーって遊園地じゃないですか。ですので、さっきのアイデアっていう話と合わせて、「アイデアの遊園地」とすると、彦摩呂の「海の宝石箱やー」みたいな感じで、アイデアがすごく豊富にあってちょっと楽しいまち。「アイデアの遊園地」のようなまちとかどうかなってちょっと考えていました。以上です。</p>
岡田委員	<p>先ほど本田委員から「かたのサイズ」の話がありました。今の話にもありますけれども、先日、私の職場に寝屋川市から依頼がありまして、あるプロジェクトに農業団体として委員を出してくださいということで、そのプロジェクトの名前が、「ワガヤネヤガワ・プロジェクト」ということで、これはひょっとしたら「タケヤブヤケタ」と一緒か</p>

<p>新川会長</p>	<p>など。おもしろい感じでありながら、なかなかよく考えておられるなどということ委員を出しました。</p> <p>それと同じで、枚方の特徴ある部分も出しながら、枚方にしかできないような表現、「めざすまちの姿」を作ることができればいいなと思いました。</p> <p>「ワガヤネヤガワ」、ちょっと思いながら聞いていましたが、同じことをやろうという主旨ではなくて、そういうアイデアをぜひ皆さん方からもいただければと思います。枚方が、アイデアがあふれるように出てくるそういう遊園地都市を目指すというのもさっき出てきましたし、ぜひ皆さん方のアイデアでいっぱいにしていただければと思います。</p> <p>どうぞ、まだご発言のない委員もいらっしゃると思いますので、「私のアイデアはこれだ」というものをぜひお話いただければと思います。よろしくお願いします。</p> <p>ついでに、難しく考えすぎると、かえってまともなアイデアも出てきませんので、先ほど本田委員がちょっとおっしゃってくださいました思いつきですが、そのようなものが結構うけるかもしれないということで、ぜひそんな意見もいただければと思います。</p> <p>ちょっと煮詰まってきましたか。まだまだ来年の夏までに決めればいいのですけど。まだご発言いただいていない高井委員、それから小原委員からも少しご意見があればいただきたいと思います。</p>
<p>高井委員</p>	<p>なかなか本田委員みたいにすっきりした言葉が浮かんでこないのですが、先ほど枚方の特徴がどこかに入ってほしいなということですずっと考えていたんです。私自身も子どもがいて、子どもがいるからやっぱり枚方に住みたいということがありまして、一つは医療が充実しているということが選択肢の中にありました。そういうこととか、これはあまり知られていないのですが大学の数が多いのは一つの特徴ではないかなと思っています。今、時期的には、菊がこれだけ飾られておりますので、そのあたりが枚方の特徴の中の一つではないかなと思っていて、そのあたりのワードでいろいろと頭をめぐらしていましたが、まだ何も言葉が浮かんでないのが現状です。</p>
<p>新川会長</p>	<p>医療やあるいは大学など、いくつかのキーワードをいただきました。枚方らしさということを考えてときに、これまでの枚方の蓄積ということをしかりと考えていくというのも重要かと思います。ぜひ、皆さん方もご参考にいただければと思います。</p>
<p>谷本委員</p>	<p>本田委員に乗っかるような意見ですけど、いっそのことアイデアと絞らないで、何か言葉をつないで、まち全体が遊園地のようにいろんな面があって、いろんな楽しみ方、過ごし方、生き方がある、結局は「枚方って楽しい、生きて、住んでいきたいまちだよ」というイメージにつながったらいいんじゃないかなとちょっと思いました。</p>
<p>新川会長</p>	<p>遊園地という引かかる方もいらっしゃるかもしれませんが、ほんとにみんなが楽しく暮らしているまちというのは、これはこれで一つの理想の姿かもしれないなと思います。その他、いかがでしょうか。</p>
<p>宮原委員</p>	<p>「あらゆる人にやさしいまち」というのは、インパクトはないかもしれませんが、あらゆる人にやさしいんですよね。インパクトがない言葉だからゆえに、そういう深い意味が隠れてしまっているとしたら残念だと思うんです。捨てたものじゃないなという手もあるんじゃないでしょうか。やさしいということは、高齢者も子どもたちにとっても、全てが表現されているとも言えるのではないかなあと。枚方らしい特徴ある心惹かれるような言葉も浮かばない中で、この言葉は、インパクトはないかもしれないけれども、深い意味を持っているのではないかと捉えられるのではと思っています。</p>
<p>新川会長</p>	<p>楽しいまちという意見が出たところで、いや、やっぱりやさしいまちも大事だよねということでご意見をいただきました。とても大事なことだと思います。理想の姿をどうするかということの重要なポイントですので、いかがでしょうか。</p>

伊東委員	<p>まちづくりワークショップの最終回で、「どんなまちにしたいか」みたいなテーマがあって、それを取り出すと、「わくわくするまち」であるとか、「やさしいまち」も入っているんですけども、「広がっていくまち」とか、そういう言葉があったりするんです。「菊のまち」など菊人形の菊も入っていますけどね。</p> <p>先ほど、住み続けることを期待しているということでしたけれども、やっぱり若者って大阪市内に一度は住みたいと思うんですね。だから、住み続けることを学生にお願いするみたいなことになっていくと、縛りつけることもあると思うので、「枚方は良いよ。良いまちだったよ」っていうことを発信していってくれるような、そういう良さを在学中に身に付けていただくとか、経験していただくとかそういうことがあったら、枚方の良さが広がって行って、「住みたい」とか、「そういえば昔そういうことを言っていたな」とか、そういうイメージが口コミで広がっていくと思うんですね。だから、そういう意味でも、縛り付けではなくて、いろんなところに発信が届くようなところもあったらいいのかなと思いました。</p>
新川会長	<p>発信力のあるまちの姿を考え、もちろん住み続けたいまちというのが基本にあるというお話でしたが、それは、市外に出ていった人も含めて発信をしていただけるような、そういう「めざすまちの姿」が表現されるといいなあということでお話をいただいたかと思います。その他、まだご発言していただいていない方、何人かいらっしゃいますが、いかがでしょうか。</p>
小原委員	<p>この間もちょっと発言させていただいて、あんまり芳しくなかったので取り下げたんですが、挨拶というものをもう少しどこかで取り入れてもらえたらと思うんですね。</p> <p>いろんなことがありますけど、みんな挨拶につながっていきます。ですから、やはり心と心を開く、お互いに心を開くということになってきますと、やっぱり挨拶しかないのかなと思うので、ありきたりなんですけど、その辺のところを真剣に取り入れていくと、案外住みやすいまちになるのではなかろうかと、そればかり考えております。</p>
新川会長	<p>小原委員は挨拶にずっとこだわりを持ってお話いただいております。それくらい、いわば信念を持って伝えたいということでお話されていますので、ぜひ皆さんもしっかり受け止めていただければと思います。その他、いかがでしょうか。</p>
榮野委員	<p>私も外部の人間なのでやはり意見を言いにくかったところがあるんですけども、お聞きしていると、やはり「めざすまちの姿」は、何を指すのかということと、どのようにして目指すのかという議論について、副会長の意見に私は賛成で、そこは整理して、うまく組み合わせることができたらと思います。そういう意味で何を指すのかというのは、皆さんいろいろとご意見が違ふところなんで、私もあまり言わないんですが、どのようにというところは、皆さんとも住民参加が大事、みんながつながることが大事ということなんで、みんなで作るまちとか、そういったキーワードを入れれば、いいんじゃないかなと感じました。</p> <p>ちょっと違う件でもよろしいでしょうか。11ページの「めざすまちの姿」のところなんですが、皆さんの議論とずれちゃうんですが、ちょっと違和感があったのが、「めざすまちの姿」の下に人口推計が載ってまして、「人口を増やすことを目標とする」という記述があるんですが、それが総合計画の大きな目標になっちゃうとちょっと違うんじゃないかなと。あくまで「めざすまちの姿」、要は魅力あるまちをつくるということが大きな目的で、結果として人口が増えるんですね。人口を増やすことが目標で、どんなまちでもかまわない、市外から人を呼んできたらいいいというのは、ちょっと目標ではないんじゃないかなと思いますので、ここの「目標とする」という言葉だけはちょっと削った方がいいんじゃないかという気がします。</p>
新川会長	<p>単に人を増やすということではなくて、魅力的なまちをつくって人が増えるということが本来のまちづくりじゃないかということでお話しをいただきました。</p>

北川委員	<p>議論を聞いていて、やはり市民像を目標とすべきというものを示していくということも大事ななと思うのですが、どちらかという、やっぱりここに参加されておられる市民の方と一般の方との乖離というのはかなりあるのかなと。そうすると、いきなりこの総合計画の中で、自分たちでつくっていくんだ、挑戦していくんだ、やってくれというのは、市としては望ましくないのかなと。</p> <p>だからどうするのかはほんとに難しいと思うんですが、ただ、他の市も一覧にして並べてみると、ありきたりと言ってしまえば身も蓋もないんですが、その中で、もちろん、良い市、他に負けないような都市をつくっていこうということはこの市もされていると思うんです。そうすると、この「めざすまちの姿」に、もちろん理念的なもので掲げることが大事かもしれないですけど、それよりも中身の方が大事なのではないのかなと。だから、現状の「あらゆる人にやさしいまち」というものでまとめてしまって、後々の中身の段階の方が重要じゃないかなと思いました。以上です。</p>
新川会長	<p>今、北川委員からむしろ中身が大事だ。それから、みんなに頑張れというのも、これも少し違和感があるということでお話しをいただきました。</p>
徳久委員	<p>今話していることと、もう一点、違うことを言いたいですけれども。</p> <p>もちろん、「めざすまちの姿」は状態を指していますから、「あらゆる人にやさしいまち 枚方」とするのは別に構わないと思うんですけれども、先ほどから状態にどのように近付けていくのかという二段構えが重要だということが、吉川委員からも榮野委員からも指摘されているので、しかも本田さんの意見とかを適当に混ぜていくと、「あらゆる人にやさしいまち 枚方 ～アイデアの遊園地 枚方がまちを変えるで～」みたいな言い方を適当に入れるという工夫の仕方はまだあると思うので、皆さんにとってなじみがあるような「めざすまちの姿」なり、手段、とりわけ、市民がまちをつくるんだということに対して、基本構想は計画期間を設定しないわけですから、今後、枚方を縛っていく手法になりますので、そこは腑に落ちやすい形で何かを訴えるということは、もう少し慎重に考えた方がいいかと思います。</p> <p>そういう点で、先ほどの「5つの基本目標」のところにも、場合によったら「つくる」という言葉をつけた方がいいという第一部会での議論があったと伝えた次第です。</p> <p>それと同時に、もちろんこれは行政の総合計画ですから、行政側がしっかりとしていないといけないということがあります。そこで問題になってくるのが16ページなんですけど、市民や市民団体や事業者の方も頑張ると言うなら、当然、行政もしっかりやりますということと言わなきゃいけないんです。その際に一つ問題になってくるのは、恐らく「効率的な市政運営」のところでも本来的に掲げてほしい内容がないということです。それはどういうことかという、例えば9ページ目のところで、「社会状況の変化に対応できる柔軟性」が今後の行政運営にとって大事だという指摘があったと思いますけれども、そうであれば、当然のことながら、それに見合う行政組織を持っていないといけないのですが、この「効率的な市政運営」のところでも組織に関するコメントがない。それは一体どういうことかという、恐らく、縦割り行政を越えて、組織横断的な組織運営に変えていかなきゃいけないという内容が行革の中では議論されていたんですが、そういった視点が落ちている。単に、人材育成をして頑張りますっていうのももちろん重要ですが、さまざまな課題に柔軟に対応できる組織運営をつくるという内容を入れていたかなければ、実行可能性は担保できないと思いますので、この点はぜひ入れてほしいと思います。</p>
新川会長	<p>16ページの「4. 基本構想を実現するために」というところでご意見を一ついただきました。それから「5つの基本目標」について、やっぱりまちをつくるという視点もいるのではないかとということでご意見をいただきました。</p> <p>そして、「めざすまちの姿」について言えば、理想の状態をどうしておくのか、そしてそれに向けてどんな手立てを講じるのか、そのセットでもいいのだけれど、しかし、総合計画の基本構想で、先々に向かって、少なくとも基本計画12年間の間はこの基本構想がほぼそのまま残るだろうということを考えると、そこはやっぱりちゃんと考えようと</p>

	<p>ということでご意見をいただいたかと思えます。もちろんキャッチーなアイデアも、本当にそれが有効であれば、それはそれでいいとは思っていますけれども、もう一方で、やはりずっと残るものだというのもしっかりと考えて、先々の人たちにとっても、これからこの計画に接する方々にとっても、納得のいくような「めざすまちの姿」をぜひ考えていきたいとは思っております。</p> <p>ですが、今日もいろいろとご意見をいただいているうちに時間がきてしまいました。大変恐縮ではありますが、どうしてもこれだけは言っておきたいということがあれば伺いますが、そろそろ最初にお約束した終わりの時間が近付いてございます。特に何かあれば。</p>
<p>榮野委員</p>	<p>すいません、時間がないときに。</p> <p>一点だけ事務局の方に確認でお伺いした方がいいと思うんですけど、今まであんまり気が付かなかったんですが、それぞれのページに「まちづくりワークショップでの意見・提案」というのが盛り込まれていまして、もちろんまちづくりワークショップで貴重な議論をされて非常に良い提言をいただいているのも承知しているんですが、最終の計画にこういう文言が入るのかどうか。ちょっと実務的に思うと、計画の最終仕上げのときに、出発段階で市民の方からこんな意見がありましたというのは、普通はあんまり計画に入らないのではないかなと思うのですが、それはどういう扱いで入れられているのかということを確認だけしておきたいと思えます。</p>
<p>新川会長</p>	<p>通常、これは資料編のような形でまとめることが多いようですが、事務局、何かお考えがあれば。</p>
<p>事務局</p>	<p>総合計画の基本目標につきましては、どのように反映しているかという形で図示させていただいたものでして、まちづくりワークショップの取りまとめにつきましては別途作らせていただいております、そちらの方の公表もさせていただいております。製本時点でこのように記載するところまでは考えておりませんが、今後、示し方についてもご意見をいただきながら検討していきたいと考えております。</p>
<p>新川会長</p>	<p>よろしいでございますか。その他、何か。</p> <p>それでは少しご相談であります。これまでかなり基本構想の内容についてご意見をいただいてきました。全体の計画づくりのおおよその枠組みのようなことは、ほぼ合意できているかなと思えますが、もう一方では実際にどういう言葉を選ぶかということについては、今日もまだまだ固めきれなかったということでございます。このところは、今後、最終的に当審議会として基本構想、基本計画を答申するという段階、来年の夏を想定しておりますが、そのあたりまでに固めさせていただくということで、まずはご理解をいただければと思っております。</p> <p>その上で、計画の中身が大事だということで先ほどもご意見をいただきましたが、できれば基本構想を考えるにあたりまして、そろそろこの構想の中身、基本計画の方ですが、この12年間の基本計画の議論に移りたいということと、それから基本計画の中身の議論を始めるにあたりまして、とりあえずこれまでの基本構想でいろいろといただいたご意見を取りまとめた基本構想の現時点での中間案のようなものをまとめさせていただきたいと思っております。取りまとめにつきましては、基本構想の試案、試みの案という形で取りまとめたいと思っておりますし、中間案という位置付けなのですが、これを今日までいただきましたご意見、それから、まだこの後もいろいろと思いついたこともあるかと思っておりますので、いただけるだけいただいきたいと思っておりますが、こういうご意見を事務局と正副会長で一旦取りまとめをさせていただければと思っております。</p> <p>最初に事務局からもございましたように、そろそろ議会の方にも一度報告をして、市議会のご意見というのもいただいはどうかということで、事務局の方でも考えておられるようです。やはり議会の議決を経ないといけない計画でございますので、どこまで進んだのかということのご報告はしておいた方がいいだろうと私も思っております。そ</p>

のこともあって、一旦、基本構想の中間案のようなものを試案という形で取りまとめたと思います。そのときに、一応これまでご意見をいただいたものを事務局と、それから正副会長の方でまとめさせていただく。こういう作業をさせていただいてよろしいかということでおはかりさせていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

特に反対がなければ、ご承認をいただくということでもよろしいでございますか。ありがとうございます。

それでは、もう少し丁寧に議論をした方がいいのかなというところもあるんですが、中間案ということですので、現時点において議論をしましたという構想でまとめさせていただければと思っております。

それでは、ご了承いただいたということで、今申し上げましたような進め方をさせていただければと思います。

それでは、もう一つ次第に上がっております、今後の進め方についてということで、これも先ほどお話をしてしまいましたが、そろそろ基本計画の中身の方の議論をして、また、全体を見ていきましょうということになるかと思いますが、このあたりについて事務局の方から少しご説明をいただければと思います。よろしく願いいたします。

事務局

(資料2「総合計画策定スケジュール(案)」の説明)

新川会長

ただいま、事務局からご説明いただきましたとおりなんですが、次回1月からは基本計画の中身に入っていきたいということでご提案をいただきました。この点については、全体のスケジュールからすると、もうそろそろ審議に入らないといけないかなということで、特にご異議はないとは思いますが、そういう進め方でよろしいですか。特に、ご反対がないようでございますので、基本計画の議論に移させていただくということで進めさせていただきます。

それから、今いただきました事務局からのご提案の中で、もう一つこの基本計画の審議にあたりまして重要なポイントがございます。本来はこういう計画づくりの審議会ですが、私たちが直接何かを書くというのもありえないことではないのですが、こういう総合計画の基本計画、要するに市の全方位の施策を総合的に計画的にやっという、計画化していこうということでございますので、基本的には事務局、そして庁内で市をあげてこの計画に盛り込むべきこと、あるいはこれまでやってこられたこと、その中でも課題等々を含めて、一旦、具体的な計画内容の洗い出しのようなことをさせていただいて、その結果を当審議会にご報告をいただくという形で、それを参考にしながら私たちが計画の議論をしていく、基本計画の議論をしていく、そういう進め方でいかがかということでございます。こういう進め方しかないかなと思っておりますが、この点もご理解いただければ、そのようにしたいと思いますが、よろしゅうございますか。脅しているわけではなくて、結構大変ですよということでございます。事務局から少し庁内での洗い出しをさせていただいて、それを参考にして、その中で委員の皆様方のご意見をいろいろいただきながら作り上げていく。こういう手順にしたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

それから、3つ目に、そのときの議論の仕方でございます。先ほど、事務局から言いましたように、とりあえずは、これまですでに事務方で作業していただいておりますので、「5つの基本目標」全体について、まずは幅広くご議論をいただく。広く各分野の中での現状や課題、そしてその中で今後取り組むべきことについてまずは全体を見ていただく。そして、その上で、今後重点的に進めていけないといけないようなこと、あるいは「めざすまちの姿」を実現していく、それを引っ張っていくようなそういう重点的な事業や施策をご検討いただくような、こういう二段構えで進めていきたいと思っております。まずは、広く本市として市民生活に関わる全体のことをご検討いただく。その後、重点項目のご検討をいただく。こういう構えで進めていきたいと思っておりますが、この点はいかがでしょう。全体を見てからの方がやっぱり重点項目も出しやすいかな。あるいは重点項目から出していくと、どうもそればかりに引きずられてしまってなかなかバランスが取りにくいということもあって、まずは全体を見ようかということでご提案させていただきますが、よろしいですか。

	<p>ありがとうございます。それでは、そういう方向で、今後、議論を進めさせていただきたいと思います。</p>
三輪敦子委員	<p>一点だけ確認させていただきたいのですが、そのプロセスで、今想定されている基本目標の中のグルーピングについて、今のグルーピングよりももっと適当なものがあるとか、ここに入っている項目は実はこっちのグループの方がいいよという議論は、そのプロセスで可能でしょうか。</p>
新川会長	<p>当然そこまで戻ることになると思います。先ほどから申し上げていますように、そもそも基本構想は現在の中間案ですので、この構想の「めざすまちの姿」、あるいは「5つの基本目標」、ここまでの段階では一定ご理解をいただいているとは思いますが、当然、今後具体的な基本計画の中に入っていけばいくほど、こういう括りでいいのかということも含めて、また改めて1月以降に議論をしていただければと思っておりますが、そういう理解で皆さん方よろしゅうございますか。ありがとうございます。</p> <p>それでは、今申し上げましたような進め方で、1月以降の基本計画の議論を進めさせていただきたいと思います。</p> <p>たくさんあって申し訳ないんですが、もう1つだけおはかりしたいことがあります。それは、1月以降に基本計画の議論をさせていただくのですが、これまで基本構想のところでも何回かやっていただきました部会方式をまたやりたいと思っておりますが、「いや、あれはどうも気に入らない」という方がたくさんいらっしゃればやめます。どうも、ああいう場合は審議会に相応しくないというご意見もあるかもしれませんが、おはかりさせていただくのですが、私自身としては、あの部会で随分活発にご意見をいただけたということがあって、できればまた2つぐらいの部会に分けてご議論をさせていただければと思っております。この進め方についてご意見をいただければと思います。</p> <p>部会方式について、いかがでしょうか。2つぐらいの部会を今のところは想定しております。いや、部会の運営も結構大変だということで、実は副会長とお話をしていて、部会の取りまとめ、進行する側が大変だよねということも言っていて、どうしようとか結構悩んでいるところがあるんですが、ただ、これまでの議論の結果で言うと、やっぱり皆さんお話しやすそうですし、いろんな意見が出てくるのでいいかなとちょっと思っているところがありました。特に、ご異論がなければ、この部会方式にしたいと思っておりますが、よろしゅうございますか。ありがとうございました。</p> <p>それでは、どの段階でどういうふうに部会を作っていくかまた改めてご相談をしたいと思います。基本計画についてもこの部会方式を進めさせていただくということで、今日はご了解をいただいたということにさせていただきます。実際にどうするか改めて事務局とも相談させていただいて、今後固めてまいりたいと思います。</p> <p>それでは、最後にばたばたといろんなことをお願いしましたが、今後の進め方については、ただいまのご承認をいただきましたような形で基本構想の中間案、試案として、そして、1月以降の基本計画の審議の仕方についてご了解をいただいたということで、本日の案件につきましては以上にさせていただきます。</p> <p>最後に一点だけ。ご承認をいただくということではないのですが、本田委員からお申し出がございまして、ひらかた通信というホームページ等でこの審議会での委員の活動の様子などを紹介いただいているのですが、ご自分のネームプレートの写真だとか、それから皆さん方の顔写真ではなくて、こういう場所でやっていますということで、この部屋の写真などをぜひ掲載したいということでお話しがございました。特にプライバシーの問題とか肖像の問題とかがあるということではなさそうでございますので、ご許可をさせていただきたいと思っております。この点、ご了解をいただければと思います。ぜひ、総合計画についてみんなで議論していることを積極的に宣伝していただいて、もう一つ言うと、たくさんの方の傍聴者の方がいっぱいいて、熱気が溢れているようなそんな状態を作っていただければとも思っておりますのでよろしくお願ひいたします。ご異論なければそのように進めさせていただきます。ありがとうございました。</p> <p>それでは、最後にその他事務局の方から何かございましたらお願いしたいと思います。私の進行の方は以上にさせていただきます。</p>

事務局	<p>本日の資料等につきまして、ご不明な点等ございましたら、恐れ入りますが、11月25日の火曜日までに、お電話、メール等で事務局の方までご連絡いただきますようお願いいたします。</p> <p>また、これまでと同様、本日の資料につきましては、机の上にそのままにしておいていただきましたら、委員専用のバインダーの方に閉じて保管をさせていただきます。</p> <p>次に、本日の会議録につきましては、事務局で案を作成いたしました後に、皆さんにご確認いただき、その結果を会長と調整し、決定したものをホームページで公表してまいりたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。</p> <p>なお、次回の審議会につきましては、1月14日水曜日午後6時から、この「第3・4委員会室」で開催させていただきますので、ご出席の方よろしく願いいたします。</p> <p>また先ほど、部会での審議ということでしたが、改めてその詳細につきましても皆様にお伝えさせていただければと考えておりますので、よろしく願いいたします。</p> <p>以上でございます。</p>
新川会長	<p>今日も時間ぎりぎり一杯までご議論いただき、まだまだ意見も出そうでありました。中間取りまとめでもありますので、何か内容に関わるようなご意見等ございましたら、できるだけ早い段階、11月25日ぐらいまでに事務局の方にお寄せいただければと思います。</p> <p>それでは、本日、第5回枚方市総合計画審議会、本当に熱心にご議論いただきましてありがとうございました。本日の審議会は、これをもちまして閉じさせていただきます。</p> <p>年末12月の審議会はないので、これで年内は終わりです。年内終わりということではちょっと早いですが、良いお年をお迎えください。</p> <p>それでは、以上をもちまして終了とさせていただきます。どうもご苦労様でした。</p>